

調査速報

外食需要動向（2021年3月）

外食産業売上高はコロナ禍前の水準に比べて2割程度の減少が続く

主任研究員

佐橋 官

045-225-2375

sahashi@yokohama-ri.co.jp

要約

- 2021年3月の1世帯あたり実質外食支出金額は全国が前月比1.0%減（前年同月比1.8%増）、関東地方が前月比0.9%減（前年同月比1.3%減）となり、ほぼ2月並みの水準となった。
- 3月の外食産業売上高（名目値）はコロナ禍による影響がなかった一昨年（2019年3月）の売上高と比較すると19.6%減となった。
- 業態別では、洋風ファストフード業態が相対的に堅調である。テイクアウトやデリバリーなどが利用できることで、本来であれば他業態を利用していたと思われる顧客が流入していると考えられる。

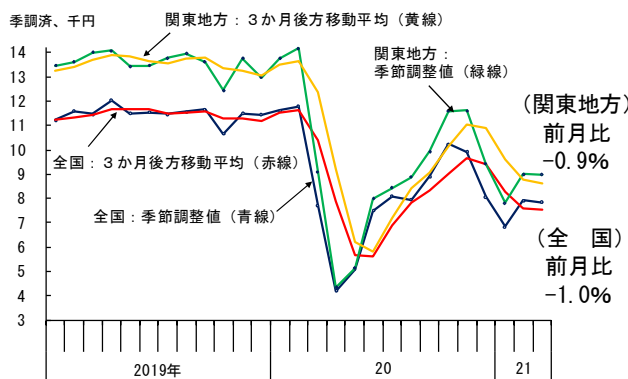
1. 2021年3月の家計の実質外食支出は前月比でほぼ横ばい

総務省「家計調査」に基づく2021年3月の1世帯あたり実質外食支出（用途別分類、2人以上の世帯、学校給食を除く、実質化および季節調整は浜銀総合研究所が実施）は、全国が前月比1.0%減（前年同月比1.8%増）、関東地方が前月比0.9%減（前年同月比1.3%減）となった。3月22日の「緊急事態宣言」解除後も一都三県では外出自粛が要請されていたこともあり、家計の外食を取り巻く状況は好転せず、実質外食支出金額はほぼ2月並みの水準となった。

2. コロナ禍前の水準に比べて、3月の外食産業売上高は2割程度の減少

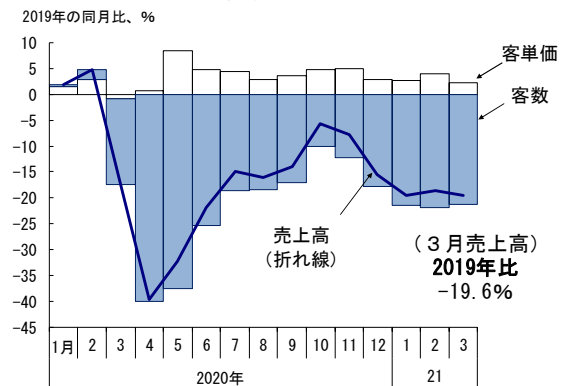
一般社団法人日本フードサービス協会が発表した「外食産業市場動向調査」によると、3月の外食産業売上高（名目値）は前年同月比2.9%減となった（次頁、図表3）。ただし、この値は新型コロナウイルス感染拡大の影響が顕在化し、外食売上高が落ち込み始めた昨年（2020年3月、前年同月比17.3%減）との比較である。コロナ禍による影響がなかった一昨年（2019年3月）の売上高と比較すると、今年3月の外食産業売上高は19.6%減となった。2021年2月の減収率は2019年の同月比で18.6%減であったことから、2021年1月以降、コロナ禍前の水準に比べて2割程度の減収が続いている。

図表1 家計の実質外食支出は前月比横ばい
(全国、2人以上の世帯、季調済)



注1：総務省「家計調査」の用途別分類「一般外食」。
注2：実質化と季節調整は浜銀総合研究所が実施。
出所：総務省「家計調査」より浜銀総合研究所作成

図表2 外食産業売上高はコロナ禍前の2割減
(全国、全店)



注1：全店とは、既存店と新規店の合計。
注2：売上高と客単価は名目ベースの税抜き価格による比較。
注3：売上高、客数、客単価は、店内飲食だけでなく店外飲食を含む値。
注4：2021年1月以降の2019年比の値は、3月の売上高を除いて浜銀総研が算出。
出所：一般社団法人日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」

3. パブ・居酒屋業態の売上高の落ち込みが続く一方で、洋風ファストフード業態は堅調

業態別の売上高をみると、パブ・居酒屋業態は2019年3月の水準と比較して67.9%減となった（図表4）。コロナ禍前と比較した3月の減収率は2月（70.7%減）に比べて僅かながら縮小（良化）したものの、依然として大幅な落ち込みである。夜間の店内飲食が中心の同業態では、「緊急事態宣言」に伴う飲食店への営業時間短縮が減収要因となった。また、「緊急事態宣言」解除後も、飲食店の営業時間は21時まで、酒類の提供は20時までとされたため、休業を継続する店舗もみられるなど、営業自粛の影響が残った。

これに対して、洋風ファストフード業態の売上高は2019年3月と比較して7.9%増となり、コロナ禍前よりも売上高が増加した（図表5）。同業態では、2020年4月以降、コロナ禍による客数の減少をテイクアウトやデリバリーの利用増などに起因する客単価の上昇が補い、増収を確保するという状況が続いている。

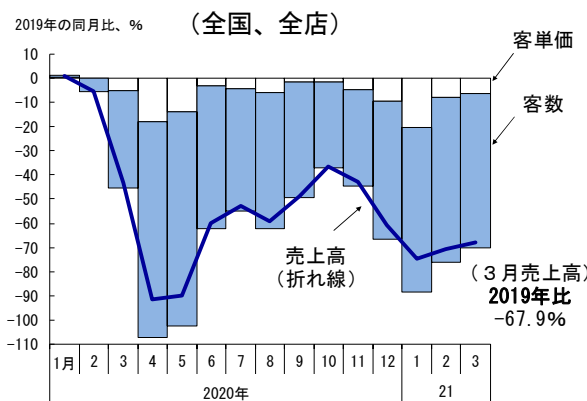
外食産業全体では客数が前年割れ（前年同月比5.7%減）となる中、洋風ファストフード業態（同2.5%増）と持ち帰り米飯/回転寿司業態（同4.7%増）の客数は前年同月比（2020年3月との比較）で増加した（図表3）。テイクアウトやデリバリーなどが利用できることで、本来であれば他業態を利用していたと思われる顧客が流入していると考えられる。

図表3 業態別の外食産業売上高
(2021年3月、全国、全店)

業 態	店舗数	売上高		客数	
		前年比	2019年比	前年比	2019年比
全 体	37,389	-2.9%	-19.6%	-5.7%	-21.4%
ファストフード	21,620	3.9%	-3.5%	-1.9%	-12.4%
洋 風	6,358	9.1%	7.9%	2.5%	-6.5%
和 風	5,096	-2.6%	-9.7%	-7.1%	-13.8%
麺 類	3,213	-7.3%	-24.8%	-9.0%	-27.1%
持ち帰り米飯/回転寿司	4,332	9.4%	-2.5%	4.7%	-8.0%
その他	2,621	-5.9%	-14.9%	-6.9%	-19.6%
ファミリーレストラン	10,151	-9.7%	-29.6%	-12.4%	-32.2%
洋 風	5,100	-12.1%	-34.5%	-14.7%	-35.9%
和 風	2,439	-7.6%	-32.9%	-9.1%	-35.8%
中 華	1,286	-4.4%	-15.0%	-9.3%	-20.0%
焼き肉	1,326	-9.7%	-18.7%	-8.3%	-16.1%
パブ・居酒屋	2,341	-39.7%	-67.9%	-39.0%	-63.5%
パブ・ビアホール	492	-31.8%	-69.7%	-38.5%	-66.6%
居酒屋	1,849	-42.1%	-67.2%	-39.1%	-62.7%
ディナーレストラン	1,075	1.1%	-38.2%	-1.4%	-40.0%
喫茶	2,009	-6.6%	-29.1%	-10.8%	-33.5%

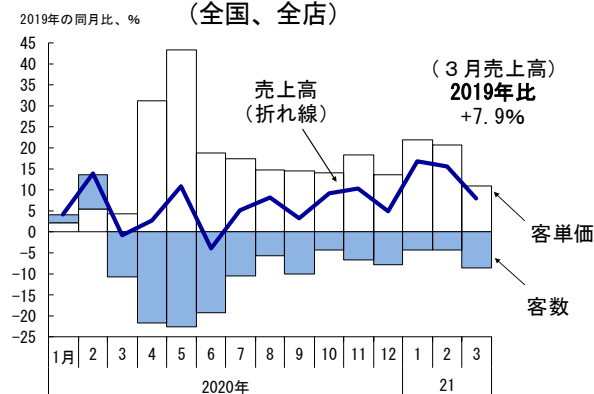
注1：全店とは、既存店と新規店の合計。
注2：売上高と客単価は名目ベースの税抜き価格による比較。
注3：売上高、客数、客単価は店内飲食だけでなく店外飲食も含む値。
注4：客数の2019年比の値は浜銀総研が算出。
出所：一般社団法人日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」より浜銀総研作成

図表4 パブ・居酒屋業態の売上高の推移
(全国、全店)



注1：全店とは、既存店と新規店の合計。
注2：売上高と客単価は名目ベースの税抜き価格による比較。
注3：売上高、客数、客単価は店内飲食だけでなく店外飲食も含む値。
注4：2021年1月以降の2019年比の値は、3月の売上高を除いて浜銀総研が算出。
出所：一般社団法人日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」より浜銀総研作成

図表5 洋風ファストフード業態の売上高の推移
(全国、全店)



注1：全店とは、既存店と新規店の合計。
注2：売上高と客単価は名目ベースの税抜き価格による比較。
注3：売上高、客数、客単価は店内飲食だけでなく店外飲食も含む値。
注4：2021年1月以降の2019年比の値は、3月の売上高を除いて浜銀総研が算出。
出所：一般社団法人日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」より浜銀総研作成

本レポートの目的は情報の提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。